

IntraGuardian2 Manager Professional Version3.9.2

新機能補足マニュアル

2025 年 7 月 25 日
ネットチャート株式会社

1. はじめに

本書は IntraGuardian2 Manager Professional（以下 IG2MPro）の Version 3.9.2 で実装された機能について解説したものです。バージョン 3.9.1 以前には適用できません。

- ・ 端末履歴イベント選択機能
- ・ DB エラー時自動復旧機能

2. 機能概要

2.1. 端末履歴イベント選択機能

本機能は、従来のバージョンでは端末履歴にすべての端末イベントを記録していたのが原因で、運用上お客様にとって有効ではないイベント記録が大量に記録され、本来の不正端末検知に直接関係のないイベントが履歴情報の大部分を占めることで、運用性の低下と、リソースの消費、データベースの負荷上昇を招いていました。
今回のバージョンでは、設定によりお客様の運用に有用なイベントのみを記録するように選択ができるようになりました。

2.2. DB エラー時自動復旧機能

本機能では、IG2MPro と PostgreSQL の間で接続エラーや想定以上の接続遅延が発生した場合に、IG2MPro のサービスが停止してしまい、復旧するためには手動でサービス再起動が必要だった問題を改選する機能です。

3. 端末履歴イベント選択機能の設定の詳細

3.1. 設定の方法

この機能の設定は設定ファイルにより設定を行う必要があります。ファイルの場所は以下の通りですが環境によって変わる場合がありますので、お客様の環境に合わせてファイルを編集してください。設定はサービス動作中に行っても問題ありませんが、設定を反映させるためには設定保存後にサービスの再起動を実施する必要があります。

Windows 版 C:\ProgramData\NCAD\IG2MLA\conf\ig2mla.ini

Linux 版 ~/ig2mla/conf/ig2mla.ini

3.2. 編集方法

任意のテキストエディタを使用して上記ファイルを編集して、ファイルの最後尾に以下のパラメータを追加します。テンプレートは設定ファイルの置かれたディレクトリ内にig2mla.ini.dist ファイルに記録されておりますのでそこからコピーしても問題ありません。この指定がない場合は全イベント記録となります。基本的に推奨のコードを記載いただき、そのほかは必要に応じて指定してください。

[DeviceHistory]

TargetEvent=イベントコード, イベントコード, イベントコード

3.3. 記録されるイベント情報と推奨する記録イベント

イベントコード	検知イベント	推奨
DETECT	不正端末検知	○
RESERVE	不正端末検知(保留)	
EXCLUDE	不正端末排除	○
RESOLVE_DENY	不正端末情報取得	
RESERVE_TIMEOUT	保留時間終了	
DETECT_TIMEOUT	不正端末追跡終了	○
DISCOVER	登録端末検出	
INSPECT	許可端末検出	
EXCEPTION_IP	例外 IP 端末検出	
VENDOR	例外ベンダ端末検出	
RESOLVE_ALLOW	登録端末情報取得	
DISCOVER_TIMEOUT	登録端末追跡終了	
EXPIRE_TIMEOUT	有効期限切れ	○
INVALID_IP	登録 IP アドレス違反	

CHANGE_HOSTNAME	コンピュータ名変化	
CHANGE_IP	IP アドレス変化	
DEVICE_CARRY	端末移動	
SMART_DETECTION	スマート検知	
SMART_DETECTION_RELEASE	スマート検知解除	
REGISTER_HOST	端末登録	○
MODIFY_HOST	端末変更	○
DELETE_HOST	端末削除	○
RESERVE_HOST	保留時間変更	
REQUEST_REGISTRATION	端末登録申請	
DENY_REQUEST	登録申請却下	
ONE_OF_REGISTER_ALL_HOST	端末一括登録	○
ONE_OF_DELETE_ALL_HOST	端末一括削除	○

3.4. コード指定時の注意点

DHCP 環境や、VRRP ホスト、チーミングホスト、マルチサブネット環境においては、IP アドレス変化の記録は推奨されません。一つの MAC アドレスに対して複数の IP アドレスが検知される可能性がある場合は設定しないでください。

4. DB エラー時自動復旧機能

4.1. 設定の方法

この機能の設定は設定ファイルにより設定を行う必要があります。ファイルの場所はいかのとおりですが環境によって変わる場合がありますので、お客様の環境に合わせてファイルを編集してください。設定はサービス動作中に行っても問題ありませんが、設定を反映させるために、設定保存後にサービスの再起動を実施してください。

Windows 版 C:¥ProgramData¥NCAD¥IG2MLA¥conf¥ig2mla.ini

Linux 版 ~/ig2mla/conf/ig2mla.ini

4.2. 編集の方法

[DB]セクション内に以下のパラメータを追加してください

RetryCount=3

AutoReboot=yes

4.3. パラメータの意味

RetryCount : 1 分に一回実行される DB アクセスチェックが失敗したときの試行回数。
設定しても頻繁に“データベースへアクセスできません”の状態になる場合は値を増やしてください。過大に設定すると DB 接続エラーになったときの復旧まで時間がかかるようになりますのでご注意ください。

AutoReboot: Yes/No RetryCount の回数アクセスチェックが失敗したときに自動再起動設定。